

新資本主義下の労働者階級

フランス五月革命の意義

この論文は九月六・八日、ルツトガーズ大学でおこなわれた社会主義研究者協会第四回会議に、アーネスト・マンデル氏から提出された「新資本主義下の労働者階級」と題する報告の要約である。マンデル氏は西ヨーロッパの著名なマルクス主義者で、ベルギー左翼社会主義週刊誌「ゴーシュ」の編集長である。この論文の全文は、インタナショナル・ソシャリスト・レビューの十一・十二月号に掲載される。

更に増大し左

労働者
の使命

物質的根源であり
の実在的根源であ

革命定義の歴史

新資本主義の結果で
る「技術革新」は、完

もあり、原動力である。

個人的労働者よりも、はるかに急速に自覚を獲得

めかにかの 四つこじら
壁かわ。

生産するかを決定すべきである。

るのに成功した——などで
いる。

A black and white photograph showing a massive crowd of people filling a large stadium or arena. The spectators are seated in tiered rows, with many individuals visible in the foreground and middle ground. The background shows the structural framework of the stadium, including beams and a roof.

義と資本主義に反対する中心的立場から際どくひきはなしてしまわれわれの出発点はだけでなく、政治経済用されたるいじりもめが当代の資本主義

する世界的闘争において、英國のプロレタリアー

あらう」との予見であった。どんな場合にも、新資本主義は、ますます除外された労働は、ますます除外された労働、階級的組織の監視下で、……である。

性は増大する。
職業のものとのように、必ず剩余価値、單純な職業のものと
労働、制御され環境はますます労働条件の
バス、官公

類似性は増大し、工場、家庭、学校、デパート、駅前櫓などに現れる傾向が強化された。非創造的な強制化が進むにつれて、本筋の面白さは薄れ

ておなじみであり、一般的地位階層となるとしている。この臨時の階級銀行、未來の資本家階級などのな代理人の相当部分にはまは未來の労働者階級である。

定期間は同質の新しい社員が入る。従属のうちから、一方には上層の中堅階級の主な部分が生まれる。他方で上層の階級の増大する部分が生

されば強まるほど、労働者はますます主主義的工場が組織されている方法だ。資本主義的工場が生産するもの、要とも疑問を持つようになる。

A black and white photograph showing a dense crowd of people filling a stadium or large outdoor space at night. Many individuals in the foreground have their hands raised, some holding signs. The scene suggests a protest or a large public gathering.

全般的な学生の反訳の広がりと重要性を、時代のかれらの悲惨さと、この十五年間の規模の二倍のペトロナシに参加し理解するには、われわれがここで描寫した状態とを比較し、これを最も上の状態とすれば、一九三六年、一九四四年頃向を考慮に入れるなどなしには、むづか考える傾向がある。若い労働者はこのようあるいは一九五五年よりもはるかに、じだらう。

知的労働者階級への再結合が強められてくるものを生活水準の社会的最低の当箇制、労働者の管理、労働者の権力とい、ロシアの「労働者階級」へと戻すのである。然の上にして受け取る。彼のが導くもの、一ガンをもよよも歩く是としたまゝ比較をしない。かれらは、体制が作り出しな闘争方法をもつた。かれらは労

る「技術革新」は、完全に教育水準を基等ともいふるに意匠に貢献する。めあしてある。

しかし、新資本主義下の労働者階級の中で第一のカテゴリーより重要なのは、学費はじめとする費用の問題である。この新しい階層の結合の過程に附加される環境は、明らかに、特別な社会階級と、賃金と労働時間縮短の問題は直接的で、すべき著しい特徴がある。それは労働力、の結びつきが過渡的に断絶しているがゆえ。しかし、収入の分配の問題よりも打立てて、熟練と半熟練労働力の再生産条件に、まだ過度に専門化されではない知識が重要なことは、それが機械を指すの均等化である。

新資本主義の結果ではあり、原動力である個人的労働者よりも、なるかにする同様の生産するが、まだ決定すべき命に接しているゆえに、資本主義社会の底辺にさしかか、それが投資を決定すべき

私は、あいまいな「新資本主義」といふ用語を好まないが、しかしながらも、資本主義の基本を出発点として、資本主義はその發展の第1段階に入つたと確信している。それは、わたくし、その独立資本主義が古説的な十九世紀の自由競争による。争的資本主義と異なっているむすびに、第一、私は、ヒルトム・ニンハーピルファーディングのやうな独立資本主義とは帝国主義とも異った段階である。われわれは、この子供に名前を与えた社会に一般化しなければならない。提案された多くの名前のうち、定の破壊をはじめ、「新資本主義」よりも適当なものはないよ。的民主的自由に対するものである。

われわれは、新資本主義を独立資本主義で、量ばかり多くなる発展の最後の段階であると定義する。そこそく少くなることは急速な技術革新、永続的な戦争経済、で、基本的な人間性を拡大する植民地革命などの諸要素の結合が、いつそうおさえつけども、独占的超利潤の主要な源泉を植民地から消費者の不満があります。帝國主義それ自身に移転し、巨大企業をい傾向などである。

すぐこれらの結論を、共通して説明するのであるが、概要は、二十世紀における「統じて」階層の統一化で、統一した職

A black and white photograph showing a massive crowd of people filling the foreground and middle ground. The individuals are densely packed, appearing as small figures from this vantage point. In the background, several multi-story buildings are visible, some with windows and architectural details. The overall scene suggests a large-scale public gathering or event.